

熱中症[☀]にご注意！

～島原地区の暑熱事情～



【はじめに】

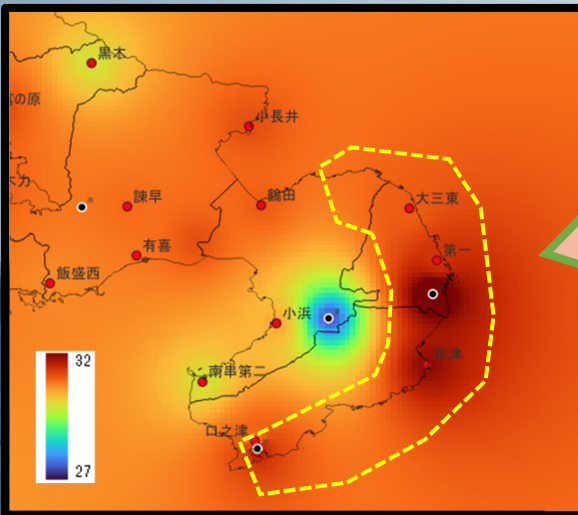
県内においても、年平均気温は上昇傾向にあり、熱中症発生数も増加傾向にあります。当センターでは熱中症に関する地域特性を把握するために、令和2年度から令和4年度まで県内各地で温度・湿度の気象観測を行い、熱中症と県内の暑熱環境に関する調査・研究を行いました。その結果、**島原地域では暑熱環境及び熱中症の発生に関して、地域的な特徴が見られています。**

Point!

←図は令和2年8月の暑さ指数（WBGT）の日最高値平均

県内でも**島原半島の一部（東側）は暑さが厳しい地域**と考えられます。

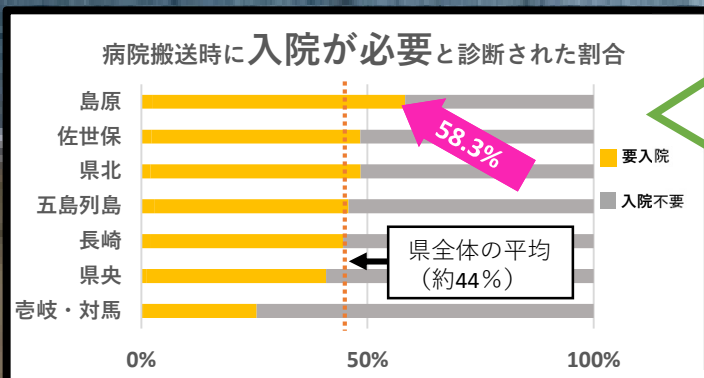
※気象庁の協力のもと環境省が公表しているの暑さ指数のデータ（2010年～2022年）においても、観測点「島原」及び「口之津」の値が県内で高い傾向にあることを確認しています。



Point!

←図は救急搬送者が初診時に要入院と診断された割合

島原地域は**病院に搬送された方の6割近くが「要入院」となっています。**



長崎県気候変動適応センター
(長崎県環境保健研究センター内)

Local Climate Change Adaptation Center
in Nagasaki Prefecture

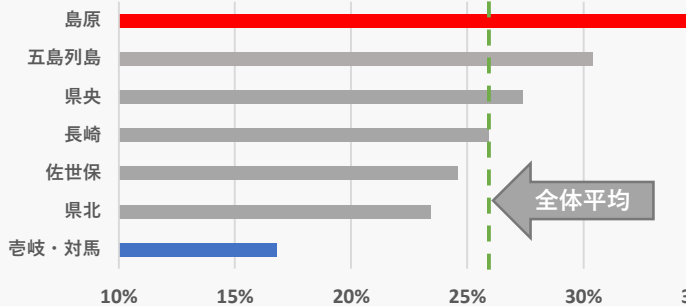


長崎県気候変動
適応センターHP

熱中症救急搬送者数と暑さ指数の関係

※グラフはR2～4年度のデータを使用しています。

暑さ指数 (WBGT) 日最高値が30°C以上の日の出現頻度 (7-10月)



島原地区は暑い！

夏場に暑さ指数 (WBGT) が30°C以上となった日の日数が県内最多です！

搬送者数はそこまで多くない…

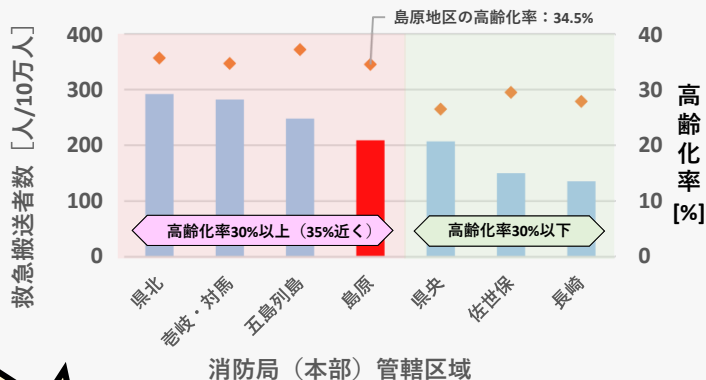
暑さと高齢化率の高さ (約35%) から見て搬送者数は少ないと言えます。

※高齢化率が高い地域は搬送者数が多い傾向にあります。

暑さに強い？

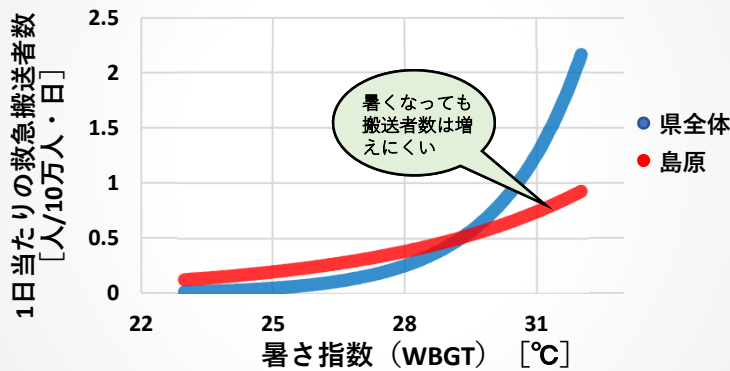
実際、暑さ指数 (WBGT) と熱中症救急搬送者数の関係を見ると、島原地区では、暑さが厳しくなっても救急搬送者数が増えにくいことが分かります。

熱中症救急搬送者数と高齢化 (65歳以上) 率

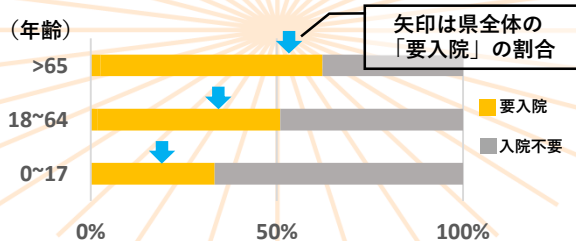


しかし！

暑さ指数と救急搬送者数の関係



熱中症の症状は重くなりがち！



【まとめ】

- 島原地区は県内でも比較的暑い地域のため、住民の皆さんは暑さ慣れしている可能性があります (救急搬送者数少)。
- 熱中症になると、その暑さのため、症状が重くなる可能性が高いと考えられます (要入院患者数多)。

熱中症警戒アラートをよく！



熱中症警戒アラートを要チェック！

暑さ指数 (WBGT) の情報を気軽に入手！



LINE環境省公式アカウント



PC・スマートフォン用



フィーチャーフォン用

環境省メール配信サービス